

Legend





- | | | | | | | | |
|---|----------------------------|---|-------------------------------|--|---------------|---|--------------------|
|  | Survey Prospect |  | Gravity Station |  | Ancient Works |  | Diamond Drill-Hole |
|  | Residual Gravity > 0.5mgal |  | Residual Gravity < -0.05 mgal | | | | |

図 42 重力法解析平面図 (ウエド・ジェブス地区)

は密度差 $0.10\text{g}/\text{cm}^3$ の高密度層となっている。断面中央部の OD2-40~90 付近の下部には白亜系に対比されるは密度差 $0.10\text{g}/\text{cm}^3$ の高密度層が分布し、表層の OD2-35~65 付近には密度差 $-0.10\text{g}/\text{cm}^3$ の低密度層がある。断面南東端付近の表層には第三系に対比される密度差 $-0.10\text{g}/\text{cm}^3$ の低密度層がある。

④ OD3 断面(図 41)

OD 地区の北東縁部を北西から南東へ横断する断面である。OD3-65 付近から北西の表層は密度差 $-0.05\text{g}/\text{cm}^3$ の低密度層が分布し、その下部には白亜系と考えられる密度差 $0.10\text{g}/\text{cm}^3$ の高密度層がある。断面南東部の深部は密度差 $0.00\text{g}/\text{cm}^3$ の重力基盤が浅部まで盛り上がり、その表層には密度差 $-0.20\text{g}/\text{cm}^3$ の低密度層がある。重力基盤と低密度層の間には密度差 $0.05\text{g}/\text{cm}^3$ の高密度層があり、南東端付近では地表付近まできている。

(f) 解析平面

地質図上に特徴的な残差重力異常とブーゲ異常を重ねた解析平面図を図 42 に示した。

OA 地区及び OC・OD 地区では残差重力異常と三畳系の分布が良い対応を示している。OA 地区では三畳系は 0mgal 以下の低残差重力異常に対応し、OC・OD 地区では逆に 1mgal 以上の高残差重力異常に対応している。このことは OA 地区の三畳系は低密度の泥が主体で、OC・OD 地区の三畳系は高密度のドロマイトが多く含まれていることを示唆していると考えられる。OB 地区の三畳系と残差重力異常との対応は明瞭でない。

OB 地区東部で南東から北西に延びる 0mgal 以下低残差重力異常は NW-SE 系の 2 本の断層位置と一致する。同様に、OD 地区の OC 地区との境界部にある 0mgal 以下の低残差重力異常も NW-SE 系の 2 本の断層位置に一致する。Kef Lasfar 鉞徴地付近の OC 地区と OD 地区での三畳系の分布の違いも、両地区境界部における断層の存在を示唆している。図 43 に明示してはされていないが、残差重力異常のコンターの形状は地質図上の断層と良い対応を示している。

OA 地区の Bou Mous 鉞徴地、OB 地区の Dar Chebka 鉞徴地及び OD 地区の Rag el Bagrat 鉞徴地は 0mgal 以下の低残差重力異常の内部にある。OC 地区の Oued Jebbs 鉞徴地と Kef Lasfar 鉞徴地は 1mgal 以上の高残差重力異常の延長上にある残差重力異常境界部に位置する。

(3) IP 法探査結果

ウェド・ジェブス地区で実施した IP 法探査結果に見られる特徴は以下のとおりである。

(a) 見掛比抵抗及び測定分極率断面(図 43~59)

各測線の断面図に認められる概略的な傾向について述べる。

(i) OA 地区

① OA0 断面(図 43)

Bou Mous 丘陵の丘陵軸を通り、南西から北東に向かって OA 地区を縦断する断面である。 $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗を示す範囲が広い。断面南西部 OA0-0~50 付近の浅部と断面北東部 OA0-200~220 の深部は $300\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗がある。Bou Mous 鉞徴地周辺の OA0-50 付近及び断面中央部 OA0-150~180 には $50\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常がある。

断面南西部 Bou Mous 鉞徴地周辺の OA0-40~50 付近にはウェド・ジェブス地区では最も強い $10\text{mV}/\text{V}$ 以上の測定分極率異常がある。それ以外の測定分極率は、断面全体にわたっ

て低い値を示す。

② OA2 断面(図 44)

Bou Mous 丘陵南西部で北西から南東に OA 地区を横断する断面である。断面中央浅部と断面北西部の深部に 100 Ω m 以上の高見掛比抵抗が分布し、OA2-70 から南東には 50 Ω m 以上の低見掛比抵抗になっている。

断面南西部 Bou Mous 鉱徴地周辺の OA2-35 付近には 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

③ OA3 断面(図 45)

Bou Mous 丘陵の中央部を北西から南東に向かって OA 地区を横断する断面である。断面北西部の深部には 100 Ω m 以上の高見掛比抵抗があり、断面南東端には 20 Ω m 以下の低見掛比抵抗がある。

本断面には優位な測定分極率異常は認められない。

④ OA4 断面(図 46)

OA3 断面の北東 500m を北西から南東に向かって OA 地区を横断する断面である。基線と交差する OA0-150 より北西は 100 Ω m 以上の高見掛比抵抗を示し、南東は 20 Ω m 以下の低見掛比抵抗が分布する。

本断面には優位な測定分極率異常は認められない。

(ii) OB 地区

① OB0 断面(図 47)

Dar Chebka から Bou Rahal にかけての丘陵部の北西麓を南西から北東方向に OB 地区を縦断する断面である。断面中央浅部の OB0-70~100 付近に 100 Ω m 以上の高見掛比抵抗がある以外は、50 Ω m 以下の低見掛比抵抗がほとんどである。特に、断面南西端付近と OB0-60 付近は 10 Ω m 以下の特徴的な低見掛比抵抗異常となっている。

本断面には有意な測定分極率異常は認められない。

② OB2 断面(図 48)

OB 地区の南西部を北西から南東に横断する断面である。基線と交差する OB0-75 付近浅部と断面中央部 OB2-80~100 付近深部に 50 Ω m 以上の高見掛比抵抗がある以外は、50 Ω m 以下の低見掛比抵抗を示す。特に、断面中央部から南東部にかけては、深部の高見掛比抵抗異常を取り囲むような 10 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常がある。

断面南東部 OB2-110~130 付近の深部に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

③ OB3 断面(図 49)

OB 地区の中央部を北西から南東に横断する断面である。前述の OB2 断面と同じような見掛比抵抗分布を示すが、OB2 断面に比べて 10 Ω m 以下の低見掛比抵抗の範囲が狭い。

本断面では、断面中央部 OB3-90 の深部にある 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常が有意な異常と考えられる。

④ OB5 断面(図 50)

OB 地区の北東部で Dar Chebka 鉱徴地を通過して北西から南東に横断する断面である。前述の OB2 及び OB5 断面と同じような低い見掛比抵抗分布を示す。断面中央部の OB5-70

付近では、 $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常と $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常が隣接している。

本断面も断面中央部 OB5-60~90 付近の深部に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

(iii) OC 地区

① OC0 断面(図 51)

Jebel el Mourhra 丘陵西部の Oued Jebes 鉱徴地と中央部のそ鉱徴地を通して、南西から北東に OC 地区を縦断する断面である。断面全般に $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗が広がり、Oued Jebes 鉱徴地を含む断面南西部の OC0-20~OC0-60 付近と断面北東部の OC0-140~170 付近には $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常がある。断面中央部 OC0-80~120 付近の浅部と北東端には $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常がある。

本断面は 2 つ鉱徴地があるにもかかわらず、有意な測定分極率異常は認められない。

② OC1 断面(図 52)

Jebel el Mourhra 丘陵西部で北西から南東へ OC 地区を横断する断面である。OC1-40 から北西は $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常が広がっている。中央部の OC1-60 付近浅部から OC1-110 付近深部にかけて $20\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常が延びている。

断面南東部 OC1-110~120 の深部には 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

③ OC2 断面(図 53)

OC 地区の中央部を北西から南東に横断する断面である。断面中央部の OC2-40 から北西と OC0-75~OC2-70 の深部に $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常が分布する。断面南東部の OC2-70~80 付近の浅部には $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常がある。

断面中央部に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常があるものの有意な異常とは認められない。

④ OC3 断面(図 54)

Jebel el Mourhra 丘陵中央部の Kef Lasfar 鉱徴地を通して北西から南東へ OC 地区を横断する断面である。OC3-60 から北西は $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗広がっている。中央部の OC0-125~OC3-70 付近の深部には $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常がある。

Kef Lasfar 鉱徴地のある断面中央 OC3-60 付近浅部から OC3-40 付近の深部にかけて延びる 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

⑤ OC4 断面(図 55)

Jebel el Mourhra 丘陵西部で北西から南東に OC 地区を横断する断面である。OC4-30 付近を境にから北西は $100\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗、南東は $50\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗を示す。南東側低見掛比抵抗内部には、断面中央部 OC4-40~70 付近の深部には $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常が広がっている。

本断面に有意な測定分極率異常は認められない。

(iv) OD 地区

① OD0 断面(図 56)

Jebel el Mourhra 丘陵北東部の Rag el Bagrat 鉱徴地を通して南西から北東へ OD 地区を縦断する断面である。断面北東端を除くと、全般に $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗が広がる。

100 Ω m 以上の高見掛比抵抗以上の範囲も広い。

Rag el Bagrat 鉱徴地のある OD0-60 付近の浅部には 4mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

② OD1 断面(図 57)

Jebel el Mourhra 丘陵北東部の Rag el Bagrat 鉱徴地を通して北西から南東へ OD 地区を横断する断面である。断面南東部の OD1-70 を境に北西は 100 Ω m 以上の高見掛比抵抗, 南東は 50 Ω m 以下の低見掛比抵抗となっている。南東側低見掛比抵抗内部の OD1-60~70 付近の深部に 10 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常がある。

断面中央部 OD1-60~70 の浅部には 10mV/V 以上の OD 地区の中では強い測定分極率異常がある。

③ OD2 断面(図 58)

Jebel el Mourhra 丘陵北東部で北西から南東へ OD 地区を横断する断面である。前述の OD1 断面と同様に, 断面中央部の OD0-100 を境に北西側は 100 Ω m 以上の高見掛比抵抗が分布し, 南東側は南東に向かって見掛比抵抗が低くなる 50 Ω m 以下の低見掛比抵抗が分布する。

断面南東部 OD2-70 付近浅部から中央部 OD0-100 付近深部に延びる 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

④ OD3 断面(図 59)

OD 地区の北東縁部を北西から南東へ横断する断面である。断面南東端を除くとほとんどが 50 Ω m 以上の高見掛比抵抗を示す。

本断面には有意な測定分極率異常は認められない。

(b) 見掛比抵抗及び測定分極率平面(図 60~83)

(i) OA 地区

① OA 地区見掛比抵抗平面図 n=1(図 60)

Bou Mous 丘陵の丘陵軸を通る基線 OA0 付近を境に北西側は 50 Ω m 以上の高見掛比抵抗が分布し, 南東側は 30 Ω m 以下の低見掛比抵抗が分布する。高見掛比抵抗分布域の中にも Bou Mous 鉱徴地の北西側 OA2-10~OA3-20 付近には 50 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常がある。高見掛比抵抗分布域では OA4 測線の南東部に 10 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常となっている。

② OA 地区見掛比抵抗平面図 n=2(図 61)

n=1 と似たような見掛比抵抗分布を示す。Bou Mous 鉱徴地の北西側にある高見掛比抵抗分布域中の 50 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常は OA3-30 付近だけに限定されている。

③ OA 地区見掛比抵抗平面図 n=3(図 62)

全般に見掛比抵抗は高くなり, OA3-30 付近にある高見掛比抵抗分布域中の 50 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常は非常に小さくなっている。OA4 測線上の 10 Ω m 以下の低見掛比抵抗異常は OA4-60 付近にわずかに認められる程度である。

④ OA 地区見掛比抵抗平面図 n=4(図 63)

全般にさらに見掛比抵抗が高くなっている。基線 OA0 の北西側はほとんどが 50 Ω m 以上の高見掛比抵抗を示し, Bou Mous 鉱徴地付近に低見掛比抵抗異常は認められない。南東側

に分布する $30\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗域の範囲は狭まり、 $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常は認められない。

⑤ OA 地区測定分極率平面図 $n=1$ (図 64)

OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地付近に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。それ以外に有意な測定分極率異常は認められない。

⑥ OA 地区測定分極率平面図 $n=2$ (図 65)

OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地付近に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常が $n=1$ より広がり、基線 OA0 と測線 OA2 の交点付近では 10mV/V 以上の測定分極率異常となっている。

⑦ OA 地区測定分極率平面図 $n=3$ (図 66)

OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地付近の測定分極率異常は 3mV/V 程度まで弱くなり、有意な異常とは認め難くなっている。

⑧ OA 地区測定分極率平面図 $n=4$ (図 67)

本平面図に有意な測定分極率異常は認められない。

(ii) OB 地区

① OB 地区見掛比抵抗平面図 $n=1$ (図 68)

中央部にある $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常を除くと、 $30\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗が広く分布する。南部は $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常が広がっている。中央部の高見掛比抵抗異常は三畳系分布域に対応し、南部の低見掛比抵抗異常は第三系分布域に対応する。

② OB 地区見掛比抵抗平面図 $n=2$ (図 69)

中央部の $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常が小さくなり、OB0-80 付近と OB3-70 付近の 2 箇所に限定されている。南部にある $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常も小さくなって、南西部と南東部の 2 つに分離している。

③ OB 地区見掛比抵抗平面図 $n=3$ (図 70)

全般的に見掛比抵抗の変化が小さくなっている。OB 地区中央部から高見掛比抵抗は消え、OB3 測線北西部に $50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗異常が現れている。 $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常は OB 地区南東部から消え、南西部と OB5-60 付近にある。

④ OB 地区見掛比抵抗平面図 $n=4$ (図 71)

$50\Omega\text{m}$ 以上の高見掛比抵抗はない。南東部の OB2-80~OB5-80 付近は周囲に比べて高い見掛比抵抗を示している。中央部では NE-SW 方向の基線 OB0 に沿って OB2-60 付近から OB5-60 付近まで $10\Omega\text{m}$ 以下の低見掛比抵抗異常が並んでいる。この低見掛比抵抗異常の分布範囲は三畳系に対応すると考えられる $n=1$ の高見掛比抵抗異常の位置に相当する。

⑤ OB 地区測定分極率平面図 $n=1$ (図 72)

北東部の OB0-190 付近に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。この異常は白亜系分布域にある。

⑥ OB 地区測定分極率平面図 $n=2$ (図 73)

測線 OB2 北西部、測線 OB3-30 付近、基線 OB0 北東端付近及び測線 OB2 南東端から OB3-100 付近にかけてに 4mV/V 以上の極弱い測定分極率異常がある。

⑦ OB 地区測定分極率平面図 n=3(図 74)

4mV/V 以上の極弱い測定分極率異常が中央部の OB3-70 付近, OB3-90 付近及び Dar Chebka 鉱徴地付近の測線 OB5 南東端付近にある。

⑧ OB 地区測定分極率平面図 n=4(図 75)

東部の OB5-80 付近と南部の測線 OB2 の南東端付近に 5mV/V 以上の弱い測定分極率異常がある。

(iii) OC・OD 地区

① OC・OD 地区見掛比抵抗平面図 n=1(図 76)

基線 OC0・OD0 に沿って両基線から北西側は 100Ωm 以上の高見掛比抵抗分布域が NE-SW 方向に延びている。南部の測線 OC4 南東端から OC1-100 付近にかけて見掛比抵抗は高くなり, OC1-100 付近には 50Ωm 以上の高見掛比抵抗がある。これらの高見掛比抵抗に挟まれた OC1-60 付近と OC2-70 付近には, 10Ωm 以下の小さな低見掛比抵抗異常がある。中央部の OC3-30 付近から北東部の OD3-100 付近にかけては 10Ωm 以下の低見掛比抵抗が広がっている。北西部の高見掛比抵抗は三疊系分布域に対応し, 北東部の低見掛比抵抗は第三系分布域に対応する。

② OC・OD 地区見掛比抵抗平面図 n=2(図 77)

概ね n=1 と同じような見掛比抵抗分布を示す。基線より北西側の高見掛比抵抗の分布範囲が広がっている。南西部では Oued Jebb 鉱徴付近まで高見掛比抵抗が南へ張り出している。基線より南東側では 10Ωm 以下の低見掛比抵抗の分布範囲が広がり, 測線 OC2 南東端付近から基線 OC0-100 付近まで北西へ張り出している。

③ OC・OD 地区見掛比抵抗平面図 n=3(図 78)

概ね n=2 と同じような見掛比抵抗分布を示す。測線 OC2 南東部の 10Ωm 以下の低見掛比抵抗異常は OC2-80 付近と OC0-100 付近に限定されている。

④ OC・OD 地区見掛比抵抗平面図 n=4(図 79)

概ね n=2 と同じような見掛比抵抗分布を示す。10Ωm 以下の低見掛比抵抗分布域は小さくなっているが, 基線 OC0 と測線 OC4 の交点付近に新たに 10Ωm 以下の低見掛比抵抗異常が現れている。南部の基線 OC0-90 付近から測線 OC2-20 付近に向かって 10Ωm 以下の低見掛比抵抗が北北東に張り出している。

⑤ OC・OD 地区測定分極率平面図 n=1(図 80)

中央部の Rag el Bagrat 鉱徴地付近にだけ 5mV/V 以上の測定分極率異常がある。

⑥ OC・OD 地区測定分極率平面図 n=2(図 81)

n=1 と同様に中央部の Rag el Bagrat 鉱徴地付近に 5mV/V 以上の測定分極率異常があり, 隣接する OD2-70 付近にも 5mV/V 以上の小さな測定分極率異常がある。

⑦ OC・OD 地区測定分極率平面図 n=3(図 82)

n=2 の Rag el Bagrat 鉱徴地付近に認められた測定分極率異常の位置は, 他に比べて測定分極率が高い傾向があるが, 有意な分極率異常はない。

⑧ OC・OD 地区測定分極率平面図 n=4(図 83)

Rag el Bagrat 鉱徴地付近の測定分極率異常は消え, Kef Lasfar 鉱徴地付近と南部の

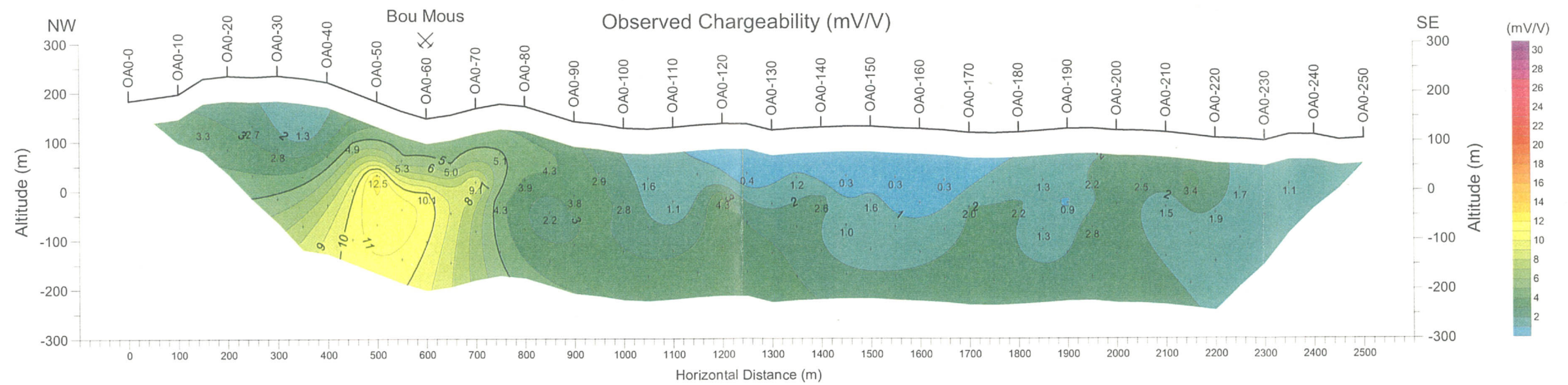
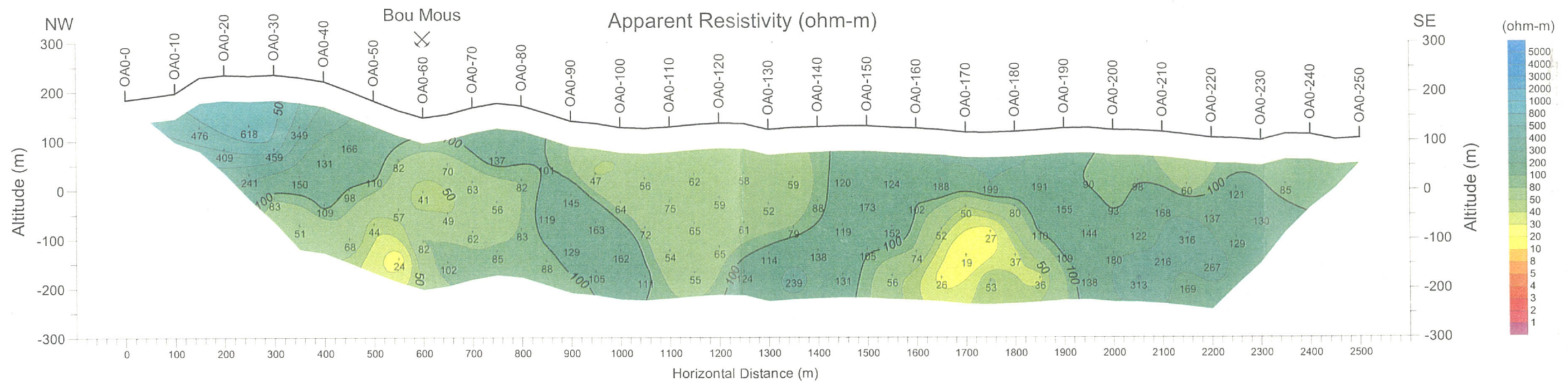


図 43 見掛比抵抗・分極率断面図 (基線 OAO)

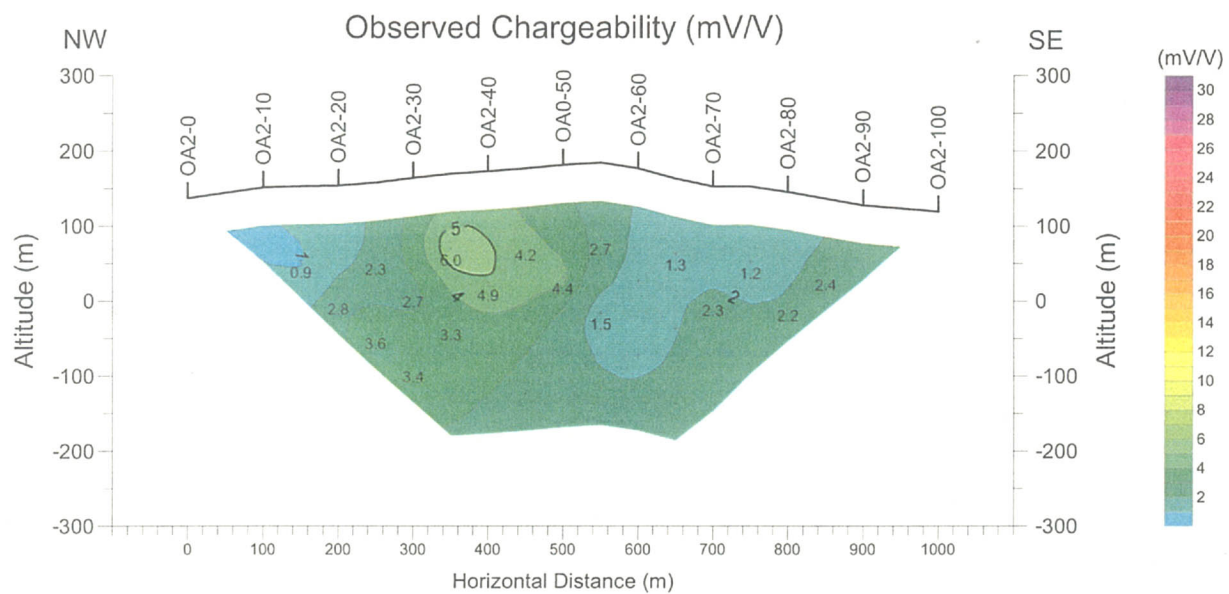
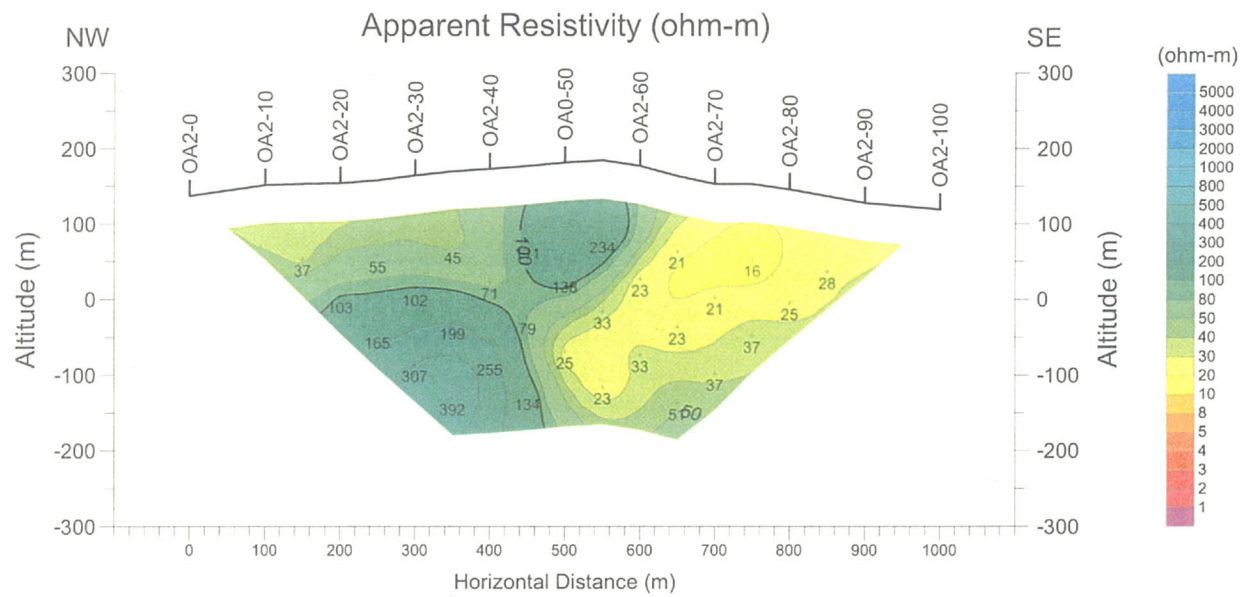


图 44 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OA2)

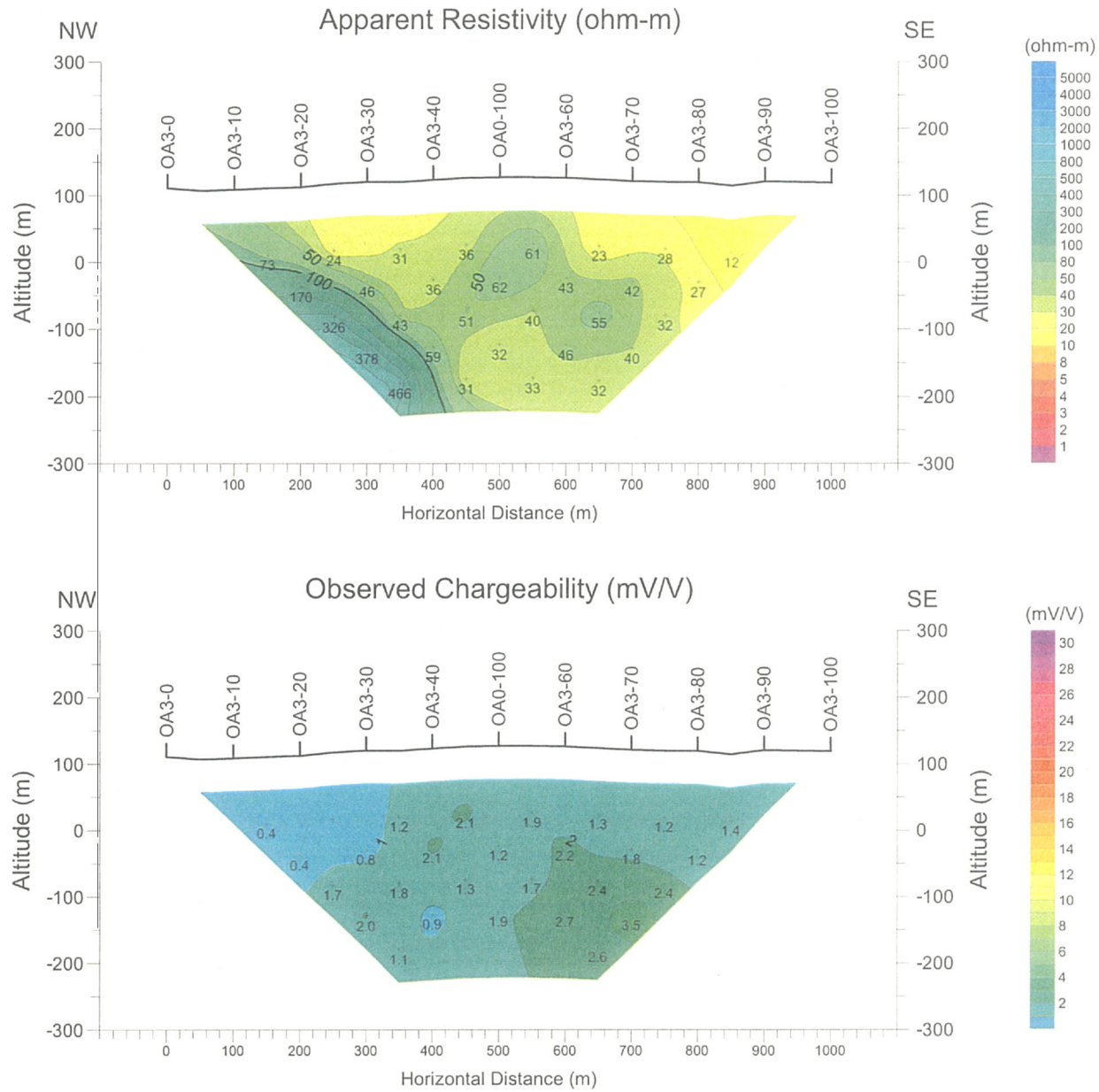


图 45 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OA3)

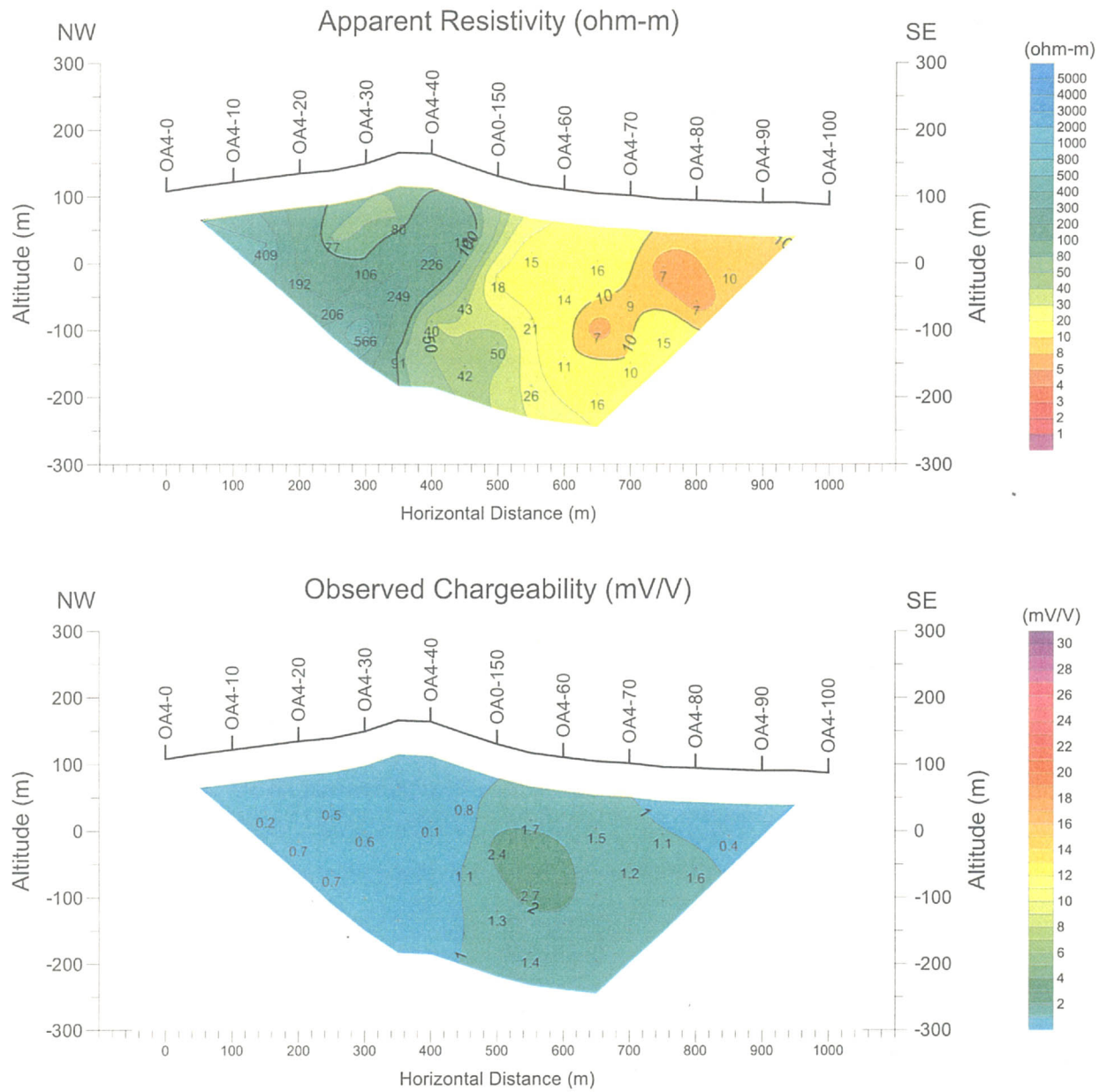


图 46 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OA4)

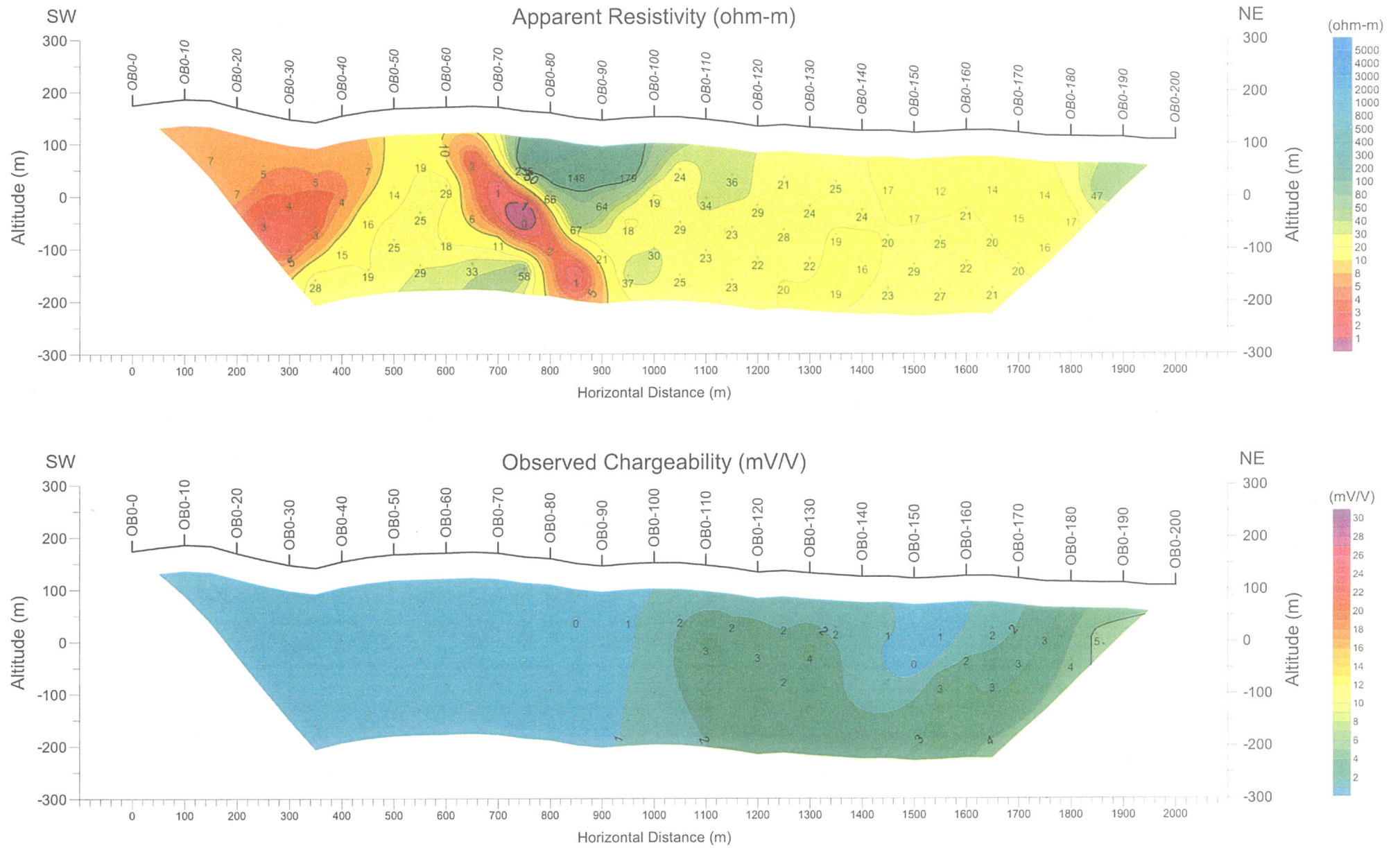


图 47 見掛比抵抗·分極率断面图 (基線 OBO)

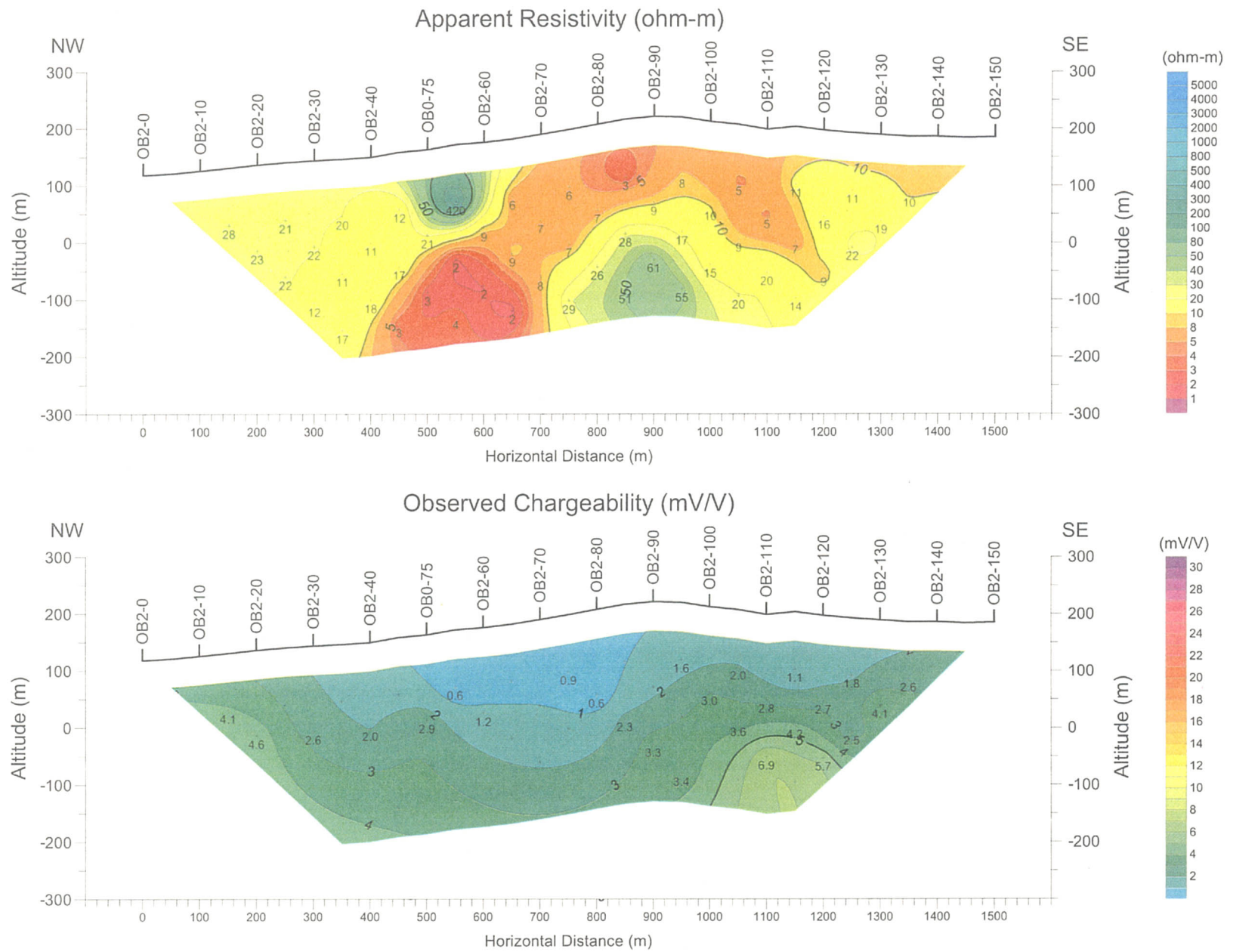


图 48 見掛比抵抗・分極率断面图 (測線 OB2)

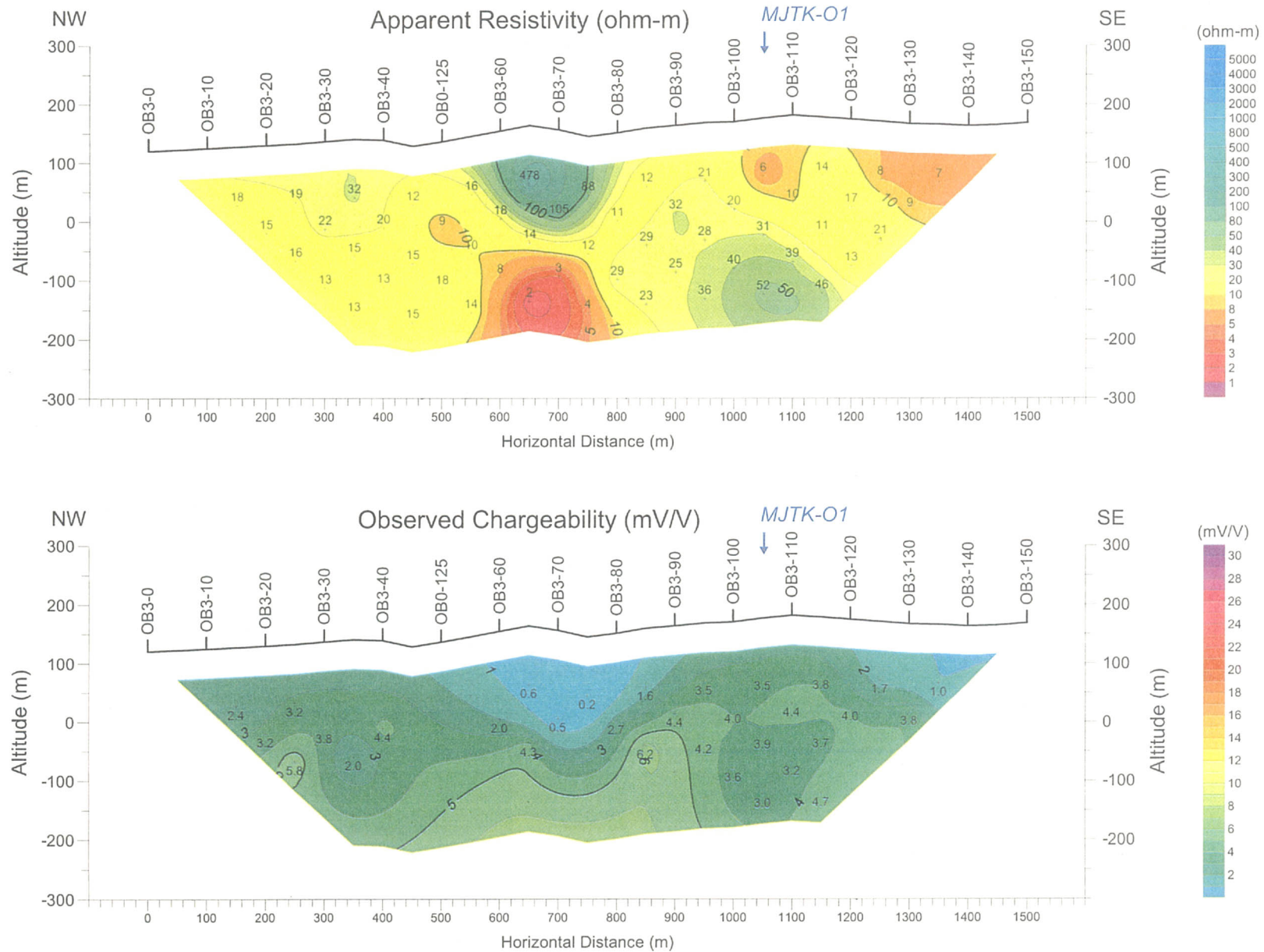


图 49 見掛比抵抗・分極率断面图 (測線 OB3)

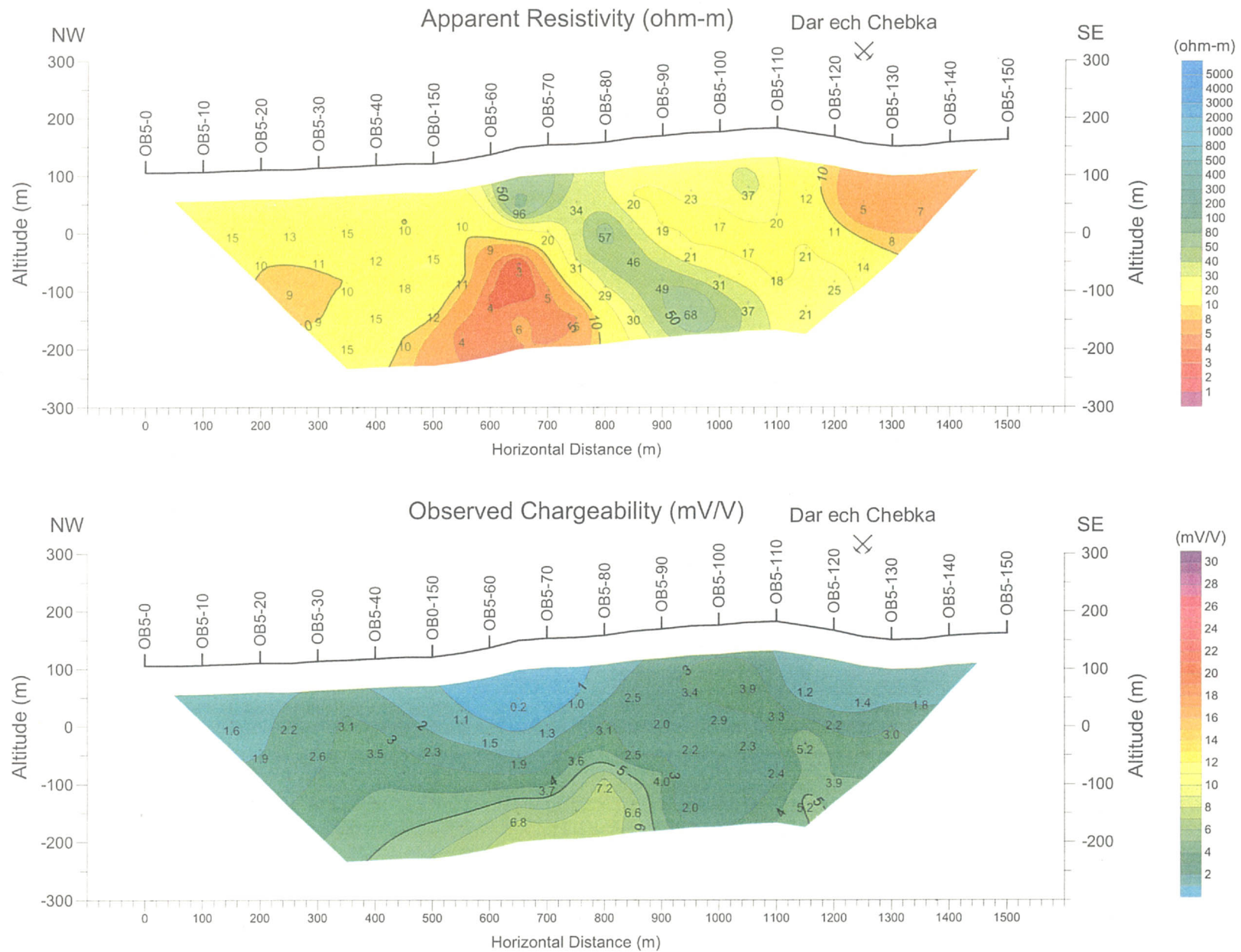


图 50 見掛比抵抗·分極率断面图 (测线 OB5)

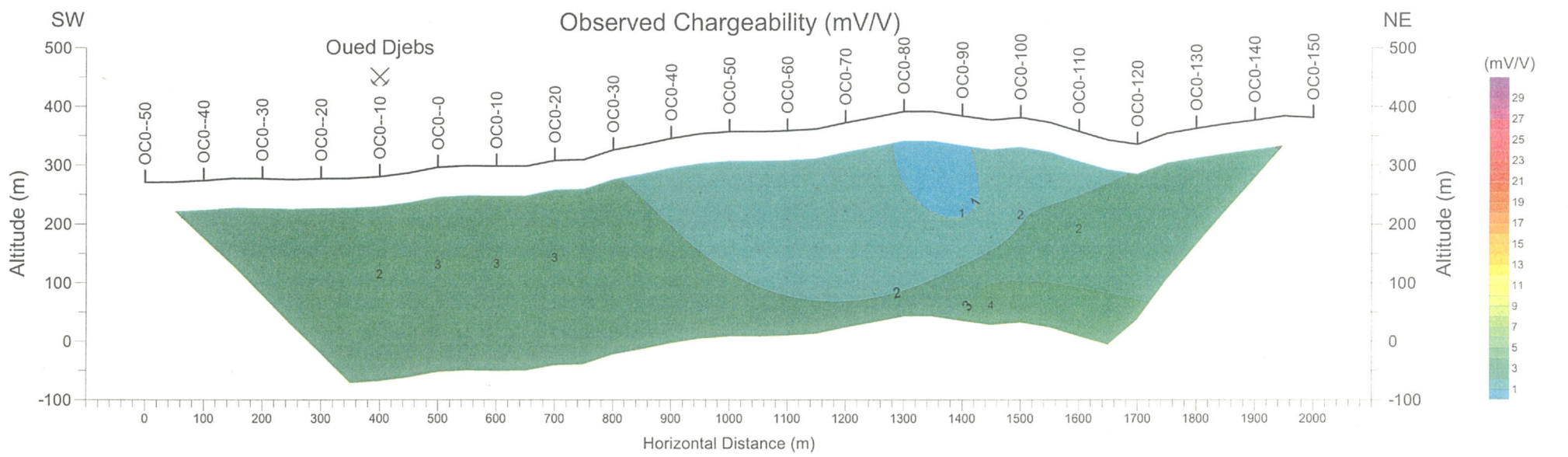
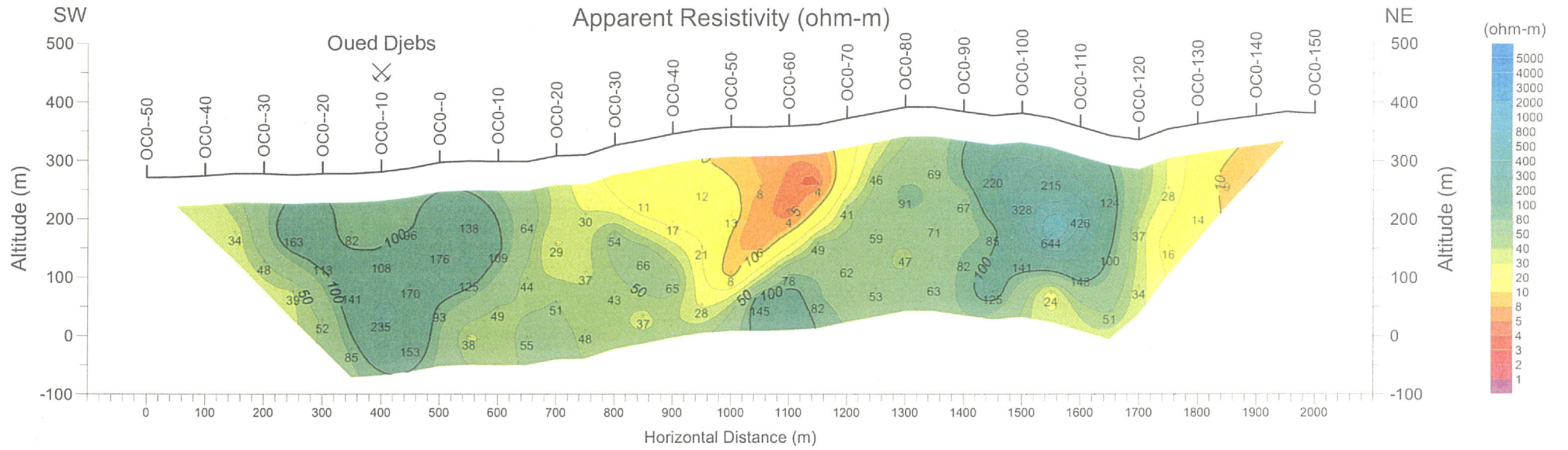


图 51 見掛比抵抗・分極率断面图 (基線 OCO)

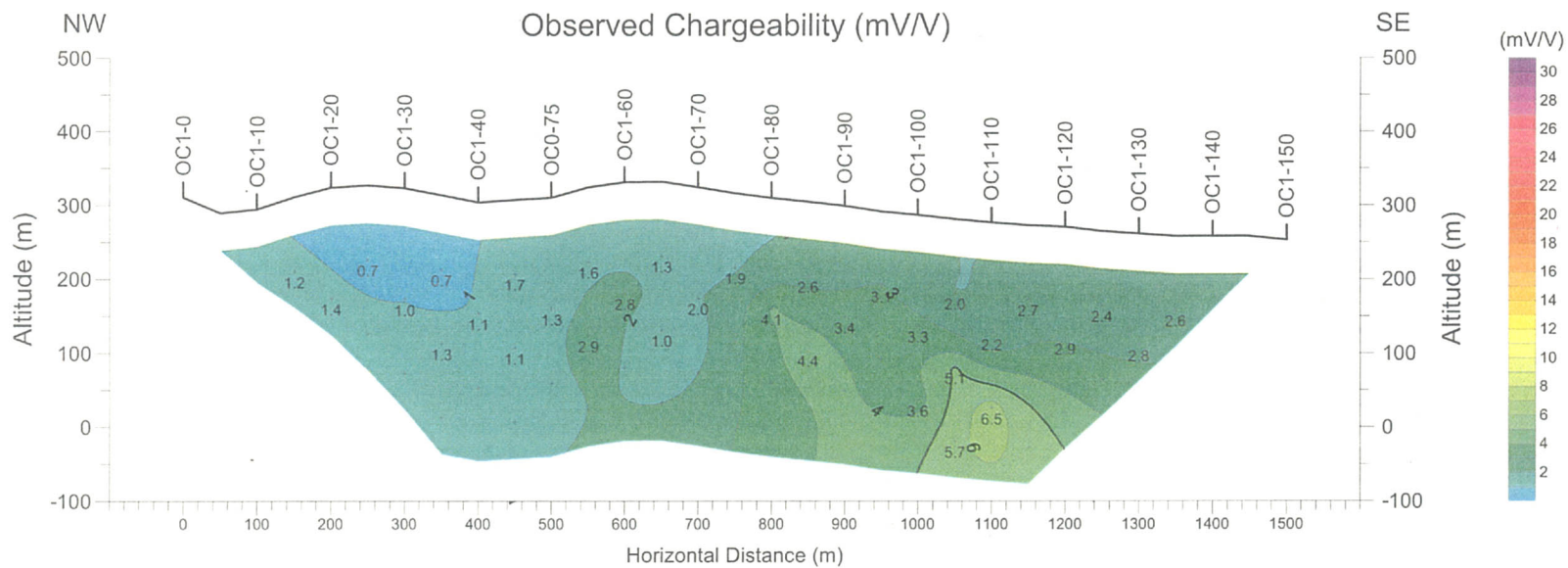
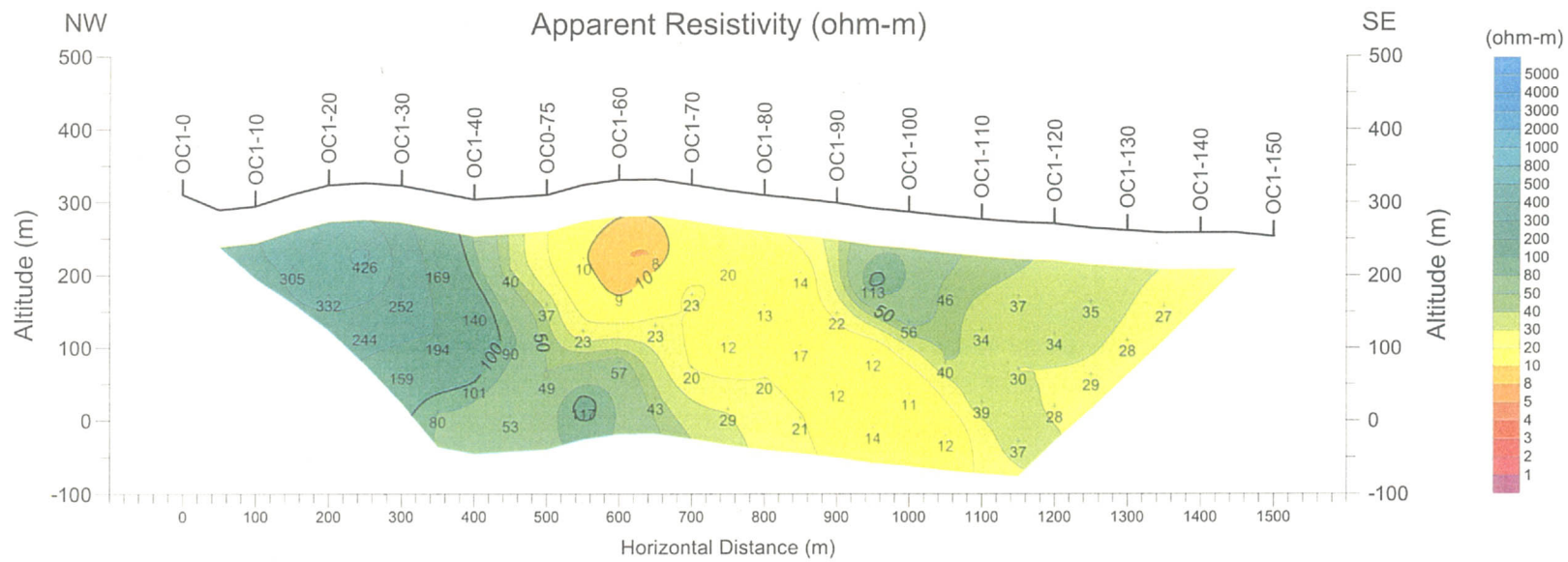


图 52 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OC1)

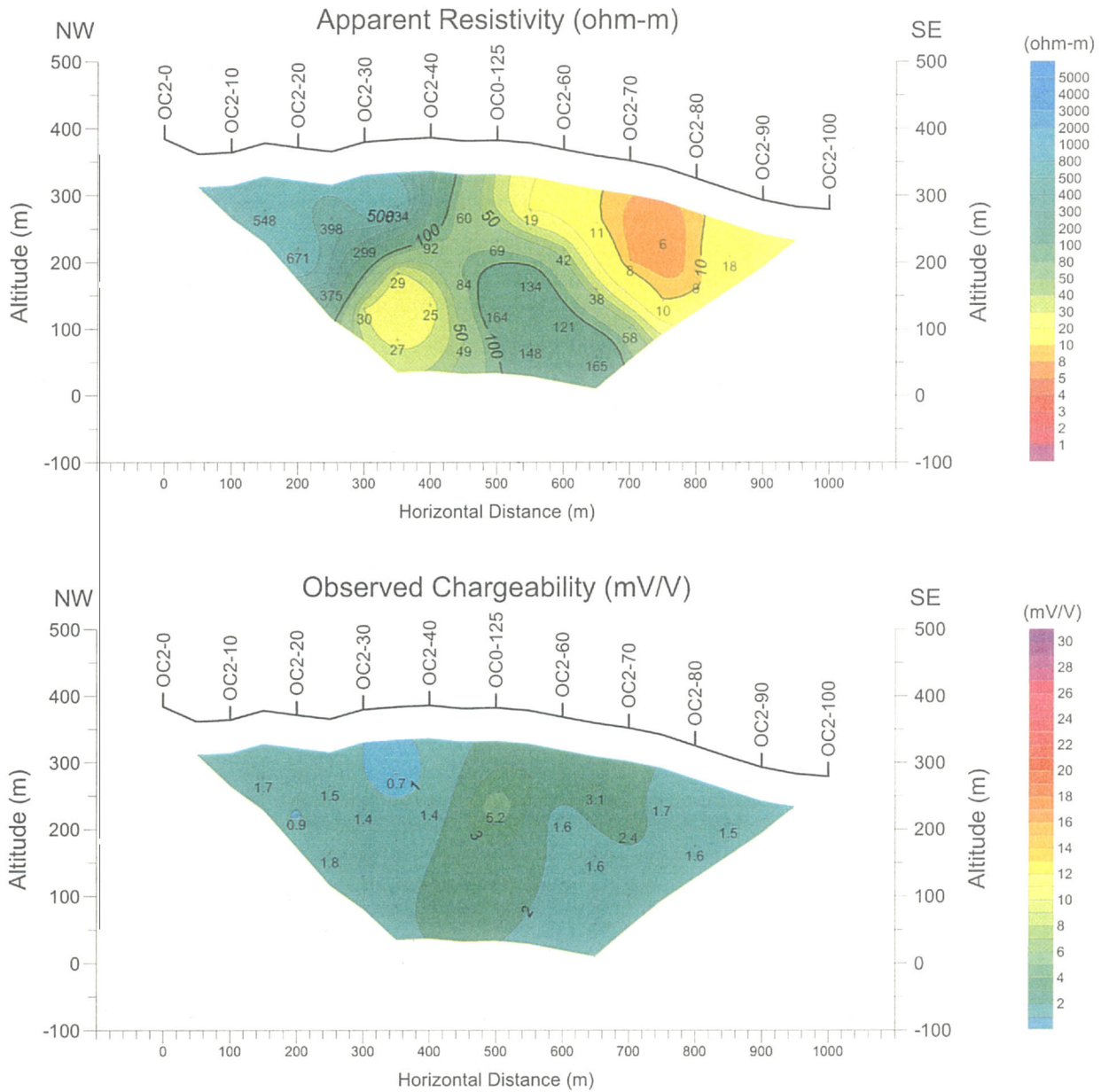


图 53 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OC2)

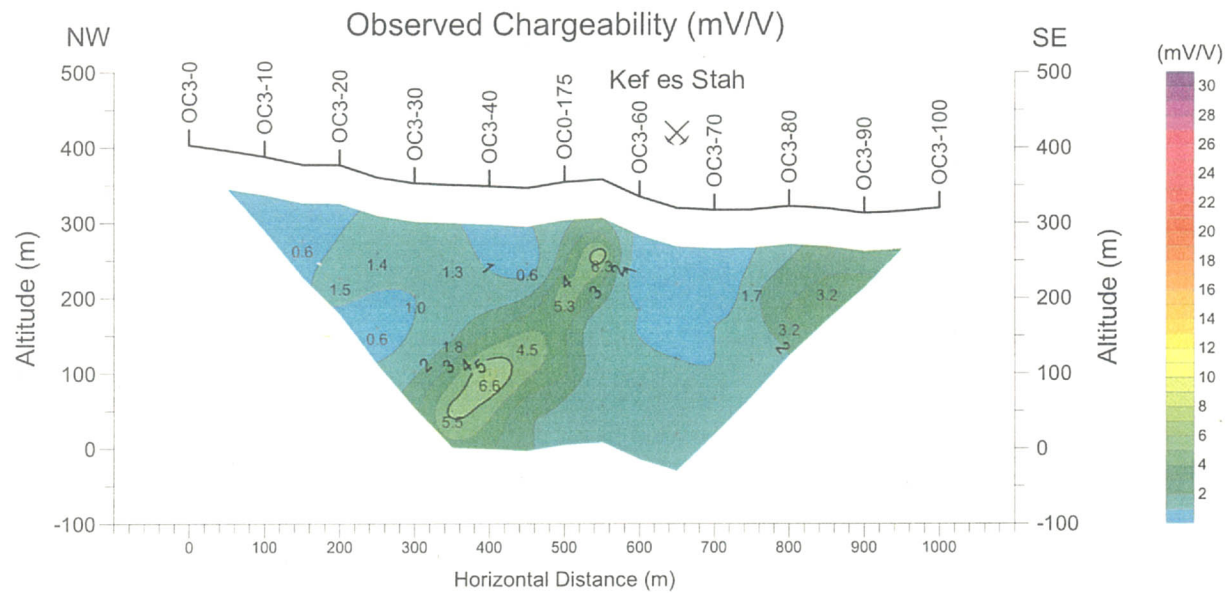
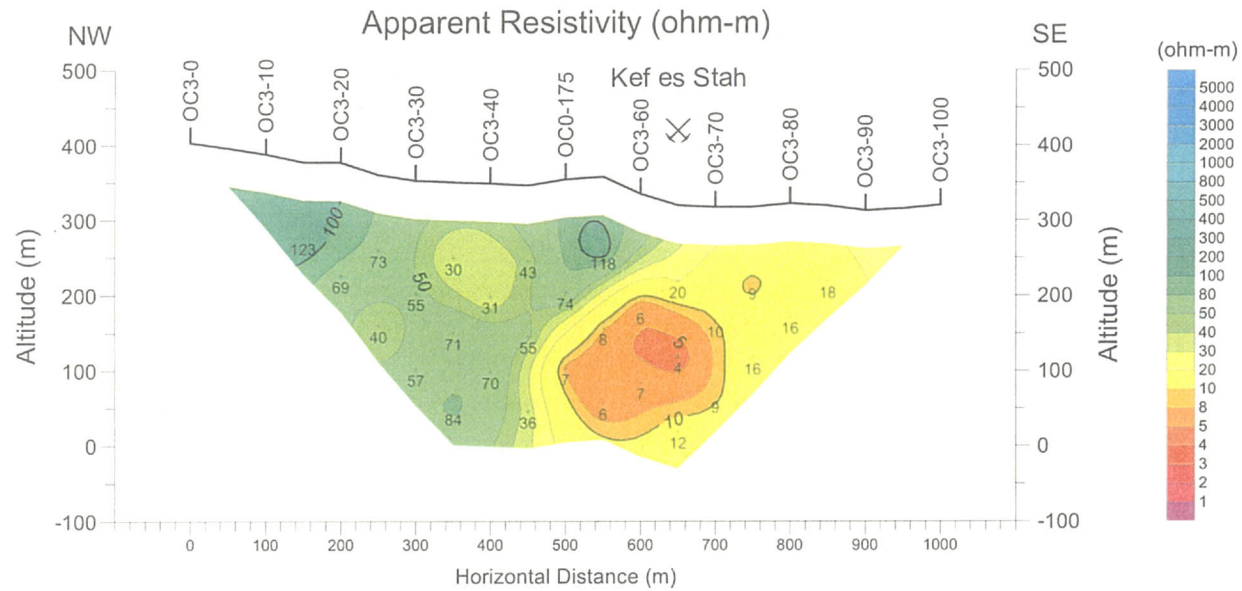


图 54 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OC3)

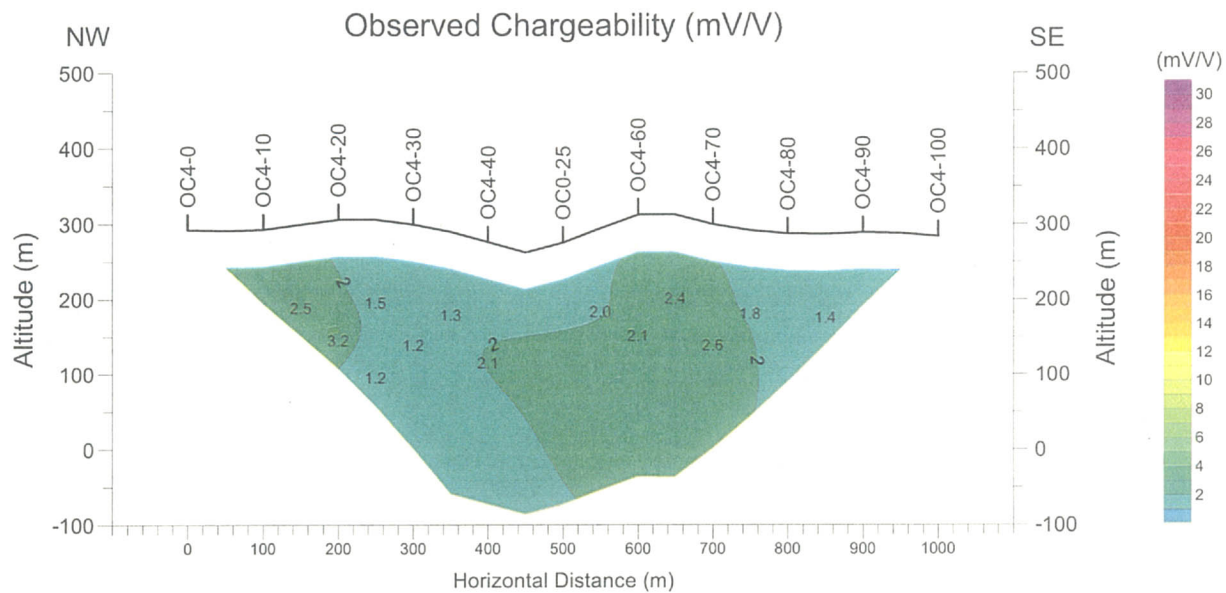
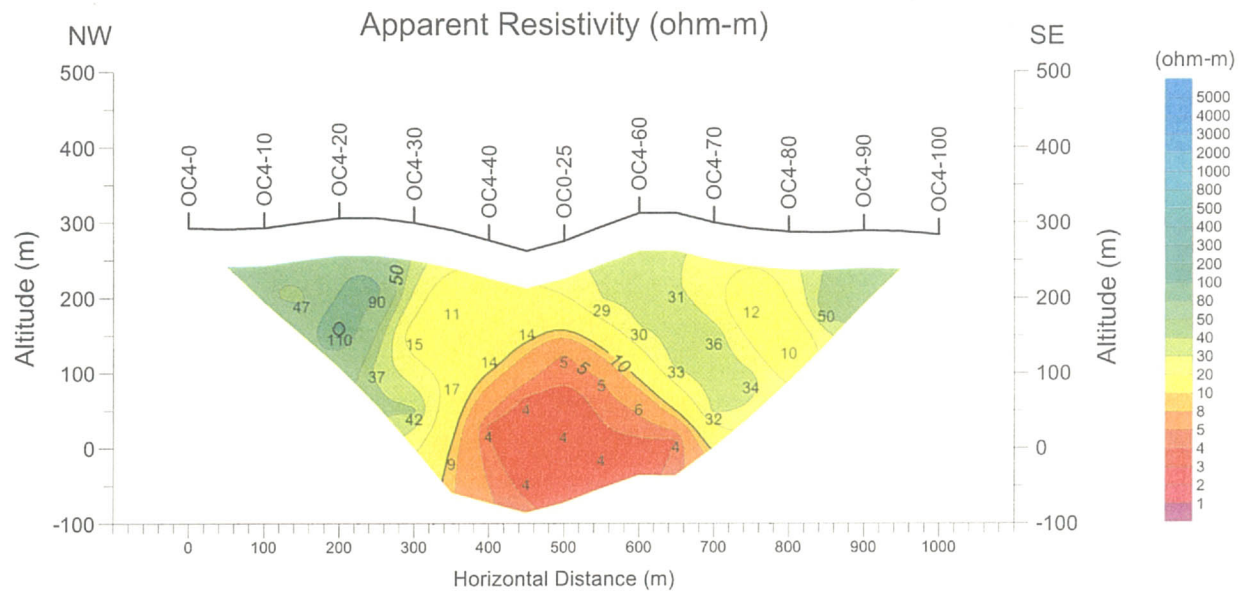


图 55 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OC4)

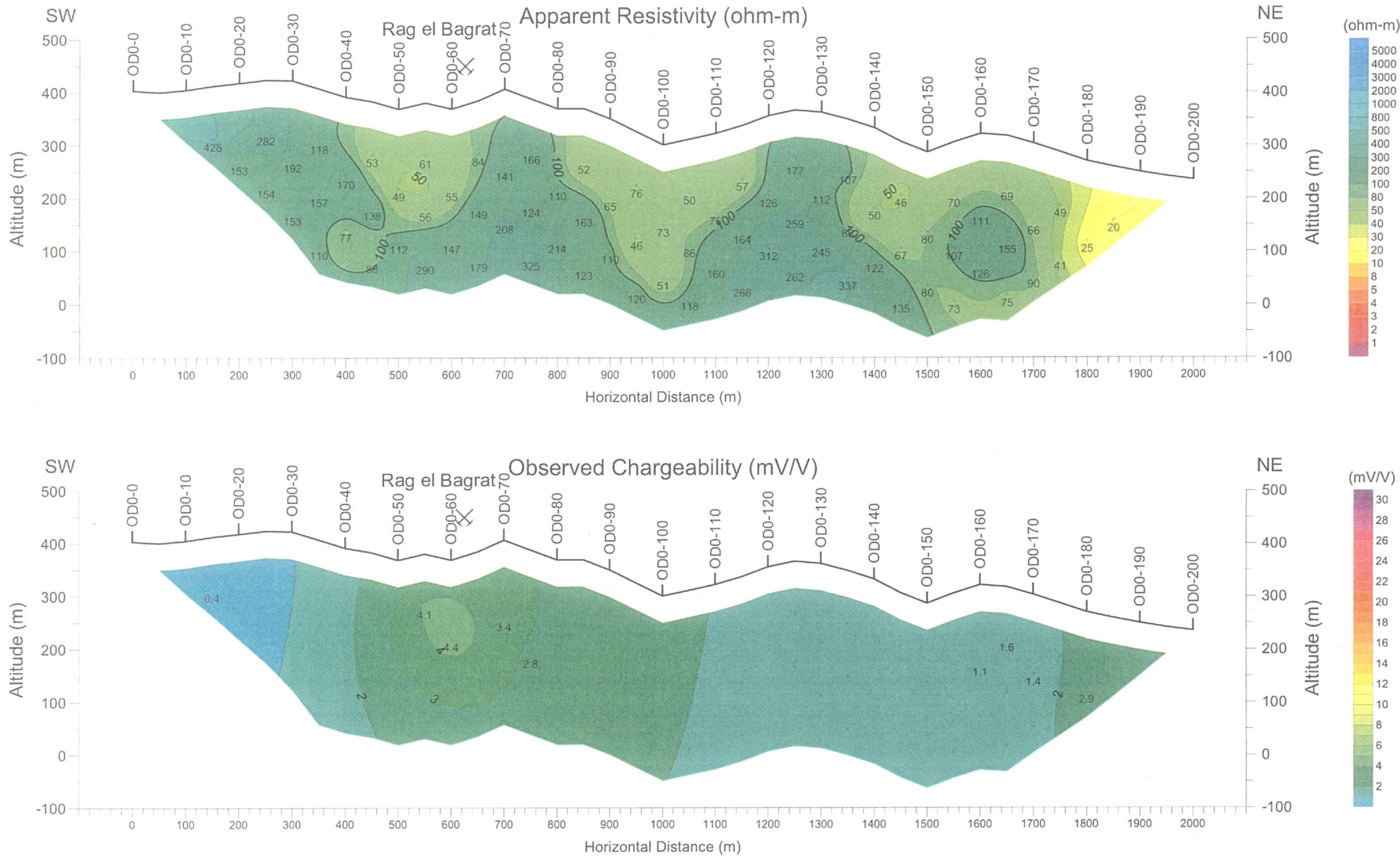


图 56 見掛比抵抗·分極率断面图 (基線 OD0)

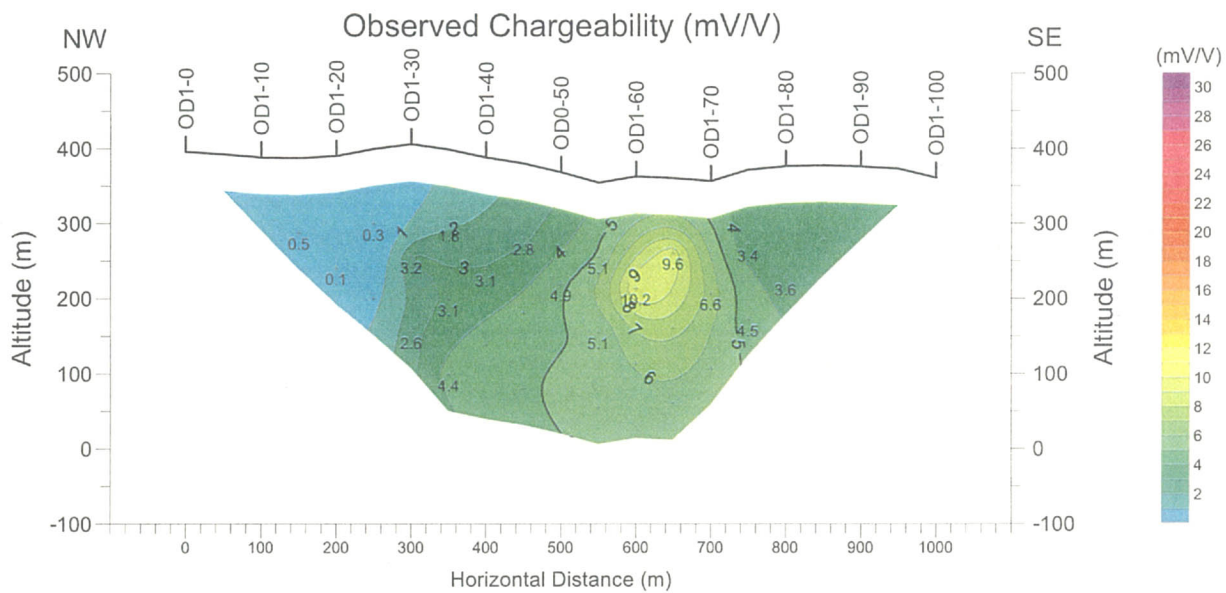
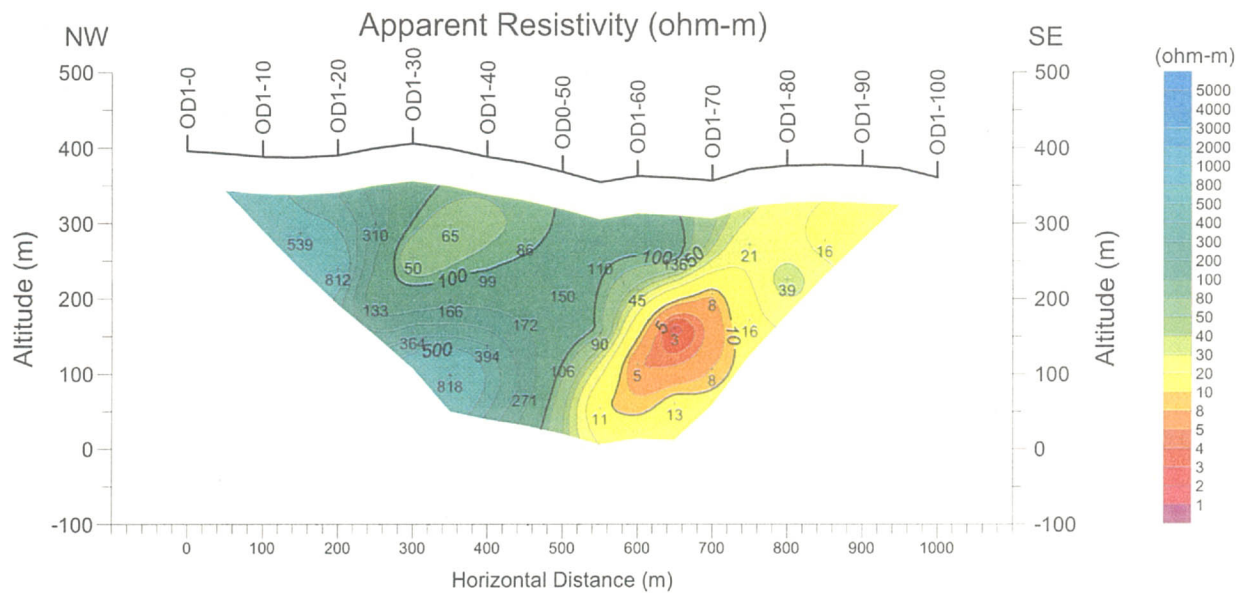


图 57 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OD1)

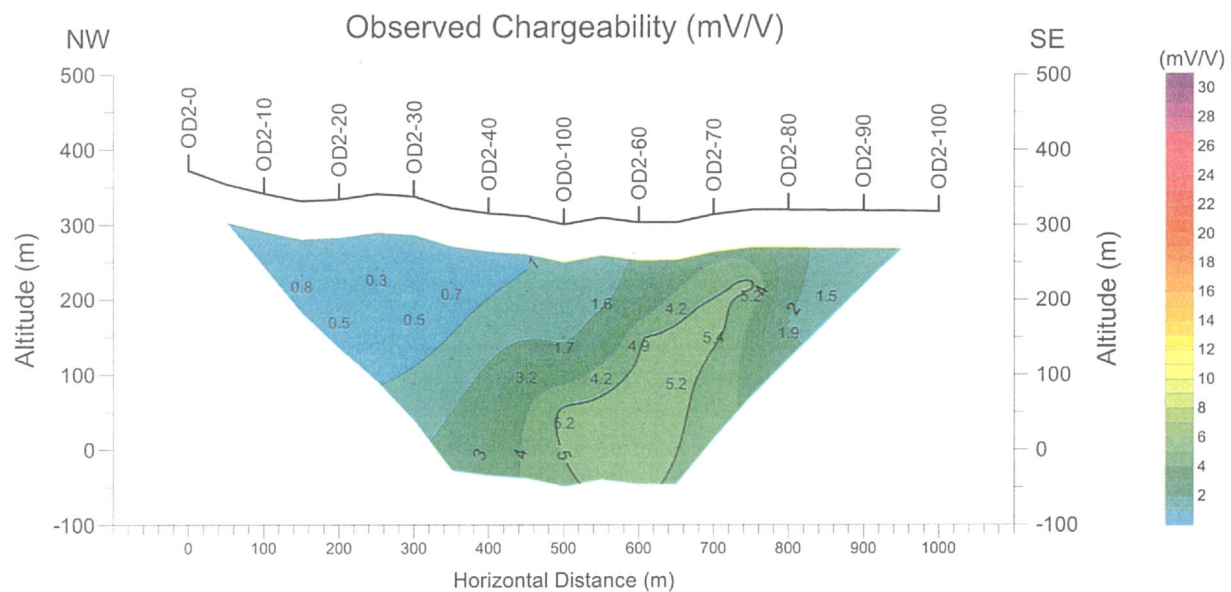
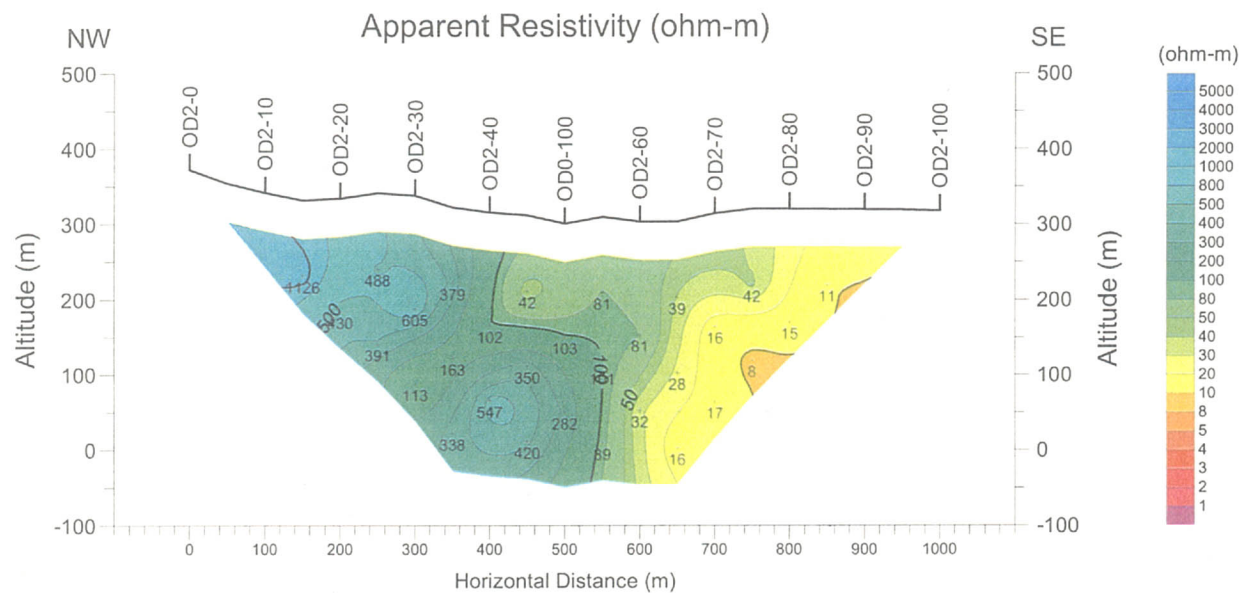


図 58 見掛比抵抗・分極率断面図 (測線 OD2)

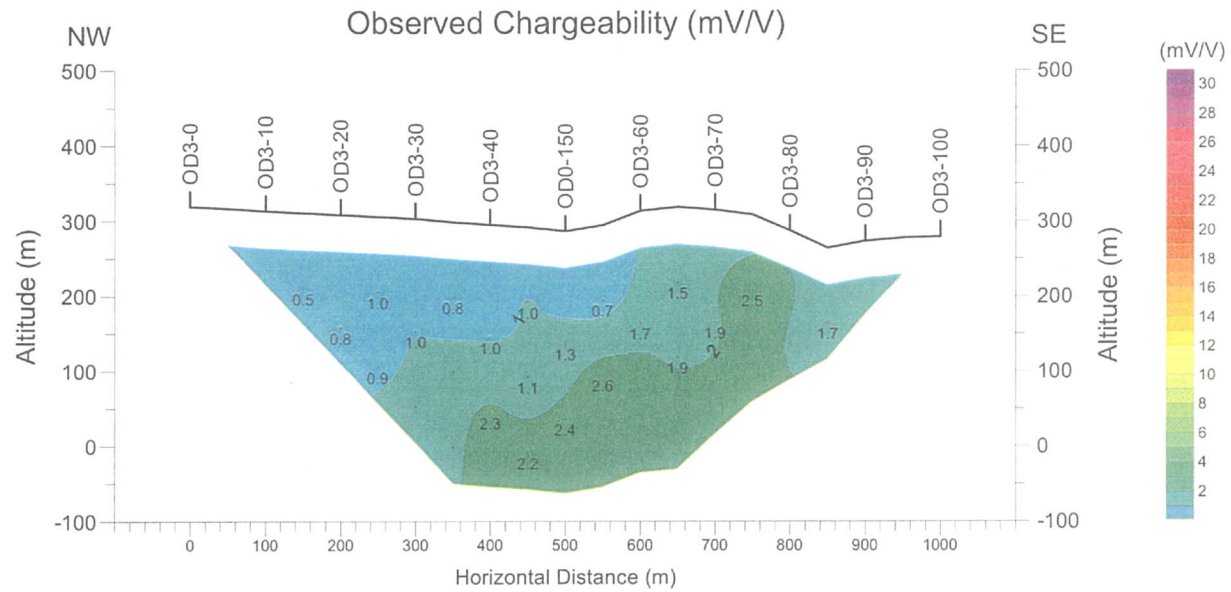
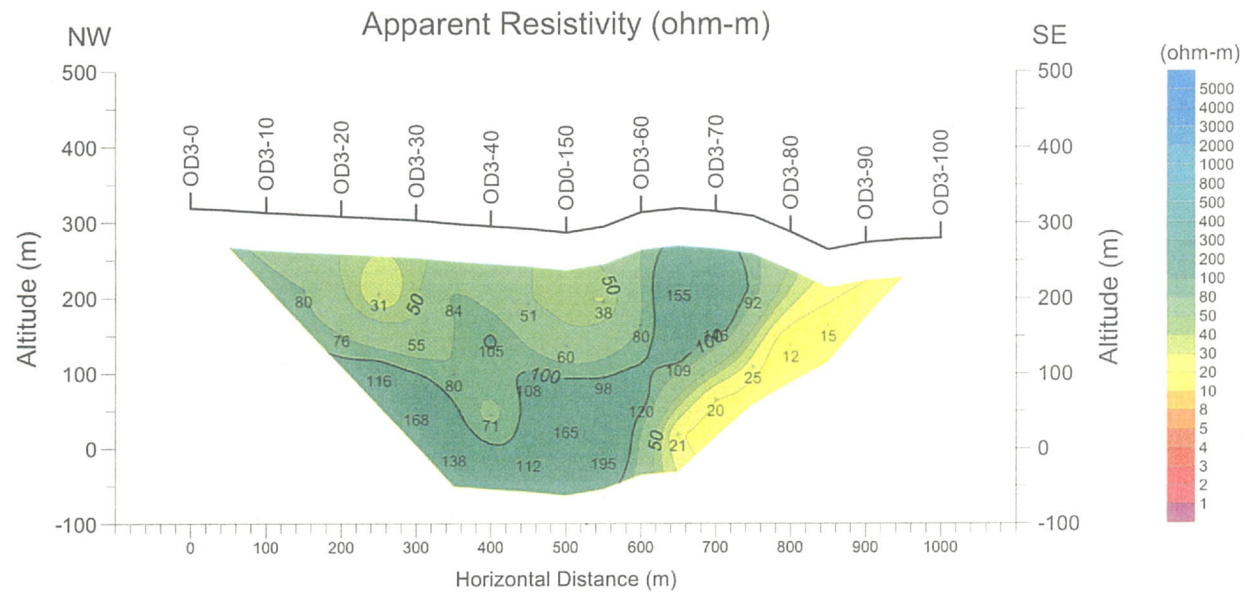


图 59 見掛比抵抗・分極率断面图 (测线 OD3)